

家庭 地域 学校
もっと一緒にやっいていこう



活動事例集

地域とともにある学校へ コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)

保護者や地域住民の皆さんが学校運営に参画する仕組みとして、学校運営協議会を設置している学校を「コミュニティ・スクール」といいます。保護者・地域住民の皆さんと教職員が、学校の教育ビジョンや課題を共有し、共に知恵を出し合いながら、教育活動の充実や課題の解決につなげていく取組です。

仕組み

委員

保護者
地域住民
教職員
公民館職員
など

地域の多様な組織から委員が選出されています。

- 自治会長
- 民生委員児童委員
- 青少年指導員
- 青少年健全育成会
- 子ども会育成会
- 学校ボランティア
- 元教員 など

学校運営協議会



学校運営や、教育活動の充実・学校課題の解決に必要な支援などについて協議

校長

学校運営の
基本方針



学校運営・
教育活動

説明
承認
(必須) ①

学校

説明
意見 ②

学校運営に
関する意見

市教育委員会

学校運営協議会
の設置

委員の委嘱

校長の意見を反映

県教育委員会

教職員の任命

学校運営協議会
の意見を尊重

教職員の任用
に関する意見

次のような部会やグループに分かれて活動をしている学校もあります。

- 健康安全
- 学力向上
- 地域連携
- 教育活動
- 体力向上
- 豊かな心
- 環境安全 など

学習、環境
整備、学校
課題などへ
の支援

連携・協働
の呼び掛け、
情報提供、
人材の確保

学校の応援団

保護者・地域住民・事業所

役割

①

校長が作成する学校運営の基本方針を承認する

②

学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる

③

教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる

地域とともにある学校へ コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)

導入経過

全校導入は県内19市で初

厚木市教育委員会では、平成26年度からモデル校3校（相川小学校、戸田小学校、相川中学校）にコミュニティ・スクールを導入し、成果を検証しました。学校と地域の協働が進展するなど、大きな成果を挙げたことから、平成29年度から全校展開を進め、平成30年6月に市立小・中学校全36校への導入が完了しました。



背景

今、なぜコミュニティ・スクールなのか

近年、教職員の長時間勤務や教える内容の増加、情報通信技術の活用、子どもたちの体力向上、いじめ・不登校へのきめ細かな対応など、学校は取り組むべき多くの課題を抱えています。さらに、これから子どもたちが生きる社会は、情報化やグローバル化の進展、雇用環境の変化など、大きく変わっていくことが予想されています。

目の前の課題を解決し、新たな時代をたくましく生きる力を育むには、学校の努力だけでは限界があります。そこで、学校と地域が協働し、「地域とともにある」学校づくりを進めることで、社会総ぐるみで子どもたちを育むことが求められています。



小学校では英語が教科化に



プログラミング教育の開始

地域とともにある学校へ コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)

導入効果

保護者や地域の皆さん、教職員、いずれにも大きなメリットがあります。

学校

地域ならではの特色ある学校づくりを進めることができる

教職員が子どもと向き合う時間を確保できる

学校を核とした地域づくりにつなげられる

学校の課題を広く共有することで、解決につなげることができる

地域の力をいかした教育活動で、子どもたちの学びが充実する

家庭 (子ども)

子どもたちにとって快適な教育環境をつくることができる

子どもの地域貢献、地域活動を促進できる

保護者・地域住民の
学校運営への参画

ボランティア活動を通じたやりがい・生きがいづくりにつながる

保護者・地域住民が教育の当事者となり、責任感を持って積極的に携われる

保護者や地域住民同士の交流が深まり、人間関係が広がる

地域

活動のポイント

大きな導入効果を得るには、活動を進める上で大切なポイントがあります。

共有

家庭・地域・学校で、学校課題や教育ビジョンなど、さまざまな情報を共有することが、地域と学校の協働活動を進める第一歩です。そして、課題解決の成功体験を積み重ねることが大切です。

熟議

熟議とは、多くの当事者が集まり、議論を重ねながら課題解決を目指す対話のことです。それぞれが果たすべき役割への理解を深めながら、多様な立場から課題解決策のアイデアを出し合います。

協働

協働とは、同じ目的・目標に向かって、対等の立場で協力して共に行動することです。共有された目的・目標に向かって、子どもに関わる多くの人々の協働により、学校運営の充実、改善につなげます。

コミュニティ・スクール活動事例

①学習のサポート

児童・生徒の学力向上、教職員の負担軽減などを目的に、保護者や地域住民の皆さんが子どもたちと教職員をサポートしています。

▶ミシンの授業で使い方を助言



▶鍵盤ハーモニカの演奏をサポート



▶児童が唱える九九の確認



▶英語の授業における教員補助



▶書道の授業を補助



▶サマースクールでの学習を支援



その他 ▶そろばん、家庭科の調理、タブレットを使用した授業などでの補助 ▶学習プリントなどの丸つけ ▶家庭学習の定着を目指した「宿題チャレンジカードの導入」 ▶足し算・引き算の暗算の確認 ▶地域から講師を招いて数学を学ぶ「放課後学習会」の開催

コミュニティ・スクール活動事例

② ゲストティーチャー

保護者・地域住民の皆さんの得意分野や専門分野の知識・技能をいかして、子どもたちにさまざまなことを教えています。

▶ 地域の歴史を紹介



▶ ボールの投げ方を指導



▶ 職業講話



▶ 箏の演奏を指導



▶ 体力向上に向け長距離走を指導



▶ 農作物の栽培方法を説明



その他 ▶ シャトルランの指導 ▶ 地域におけるまちづくりについての授業
▶ 地域活動団体による活動の講話 ▶ 地元出身のプロスポーツ選手を招いた授業

コミュニティ・スクール活動事例

③体験学習の指導（1）

子どもたちが見て、触れて、五感で感じる、さまざまな体験学習を保護者・地域住民の皆さんが指導しています。

▶稲作、小麦作りなどの農業体験



▶門松作り



▶地域から講師を招いた講座を開催



▶子育てサロンの体験



▶児童が育てた大豆による豆腐作り



▶地域の踊り（音頭）



その他

▶高齢者疑似体験学習 ▶保育体験 ▶凧の制作など

コミュニティ・スクール活動事例

③体験学習の指導 (2)

▶働く車についての学習



▶昔遊び



▶うどん作り



▶バードウォッチング



▶AEDを使った応急手当て



▶職場体験学習



▶高齢者施設での体験学習



▶餅つき体験



コミュニティ・スクール活動事例

④ クラブ・部活動への支援

保護者・地域住民の皆さんが、小学校におけるクラブ活動と中学校における部活動の指導協力や活動支援をしています。

▶ 茶道クラブ



▶ 卓球クラブ



▶ 家庭部



▶ 囲碁クラブ



▶ 陶芸部



その他

▶ 料理クラブ ▶ 将棋クラブ ▶ 陸上クラブなど

コミュニティ・スクール活動事例

⑤行事・生活・心の支援

保護者・地域住民の皆さんが、学校行事の準備や運営補助、新入学児童の生活支援、読み聞かせによる豊かな心の育成などに取り組んでいます。

▶交通安全教室への協力



▶スポーツテストの計測補助



▶運動会得点板の作製



▶運動会の準備・片付け



▶新入学児童の給食準備の手伝い



▶新入学児童の着替えの手伝い



▶「心の教室」で囲碁教室を実施



▶読み聞かせの実施



その他 ▶外国籍児童の生活支援など

コミュニティ・スクール活動事例

⑥体験・交流イベント

学校運営協議会や保護者が中心となって交流イベントを開催したり、PTA行事に地域住民を招待したりして、家庭・地域・学校の交流を深めています。

▶子ども教室「デイキャンプ」の開催



▶PTAふれあい行事に住民が参加



▶折り紙教室の開催



▶野外映写会の開催



▶コミュニティルームの設置



▶地域と情報を共有する掲示板



その他

▶カレーパーティの開催
開催など

▶給食交流会の開催

▶星の観察会の開催

コミュニティ・スクール活動事例

⑦教育環境の整備（1）

子どもたちがより快適に学校生活を送れるよう、保護者・地域住民の皆さんが、教育環境の整備をしています。

▶花壇の花植え



▶学校図書館の蔵書の点検



▶池の清掃



▶プランター作り



▶学校林の活用・整備



▶学校農園の整備



コミュニティ・スクール活動事例

⑦教育環境の整備 (2)

▶剪定・枝おろし



▶草刈り



▶プールの清掃



▶机・椅子の高さ調整



▶学校近くの森を遊び場として整備



▶特定外来生物の駆除



その他

▶トイレ清掃 ▶床タイルの補修 ▶側溝清掃 ▶芝生の手入れ
▶台車の製作 ▶除草した草等のトラック運搬 ▶休み期間中の動物へのえさやり・飼育小屋の掃除 ▶図書館の情報センター化 ▶塗装など

コミュニティ・スクール活動事例

⑧子どもの安全対策

保護者・地域住民の皆さんが、子どもたちの安全の見守りなどを行っています。

▶登下校時の見守り



▶防犯についての講話



▶水泳の授業の見守り



▶パトロールプレートの作成



▶長距離走の練習の見守り



▶校外学習の見守り



▶通学路の安全点検・啓発



▶児童が作った安全マップの確認



その他 ▶見守り隊募集のチラシ作成 ▶かけこみポイントの確認 ▶休みの見守り ▶ブロック塀倒壊の危険の確認 ▶見守り隊の名札作成など

⑨ 生徒の地域貢献活動（1）

地域の催しや清掃活動などで、中学生が地域の一員としてさまざまなボランティア活動をしています。

▶ 道路の花壇の花植え



▶ 道路里親制度による花壇の管理



▶ 地域の行事で吹奏楽部が演奏



▶ 壁画の制作



▶ 公園の落ち葉集め



▶ 美化清掃



⑨ 生徒の地域貢献活動 (2)

▶ 小学校運動会の運営補助



▶ 防災訓練への参加



▶ 地区運動会の運営補助



▶ 公民館行事への協力



▶ 地域の夏祭りでのボランティア活動



▶ 河川清掃への参加



その他 ▶ 川の堤防に咲くあじさいの剪定など

コミュニティ・スクール活動事例

⑩その他の活動

これまで紹介してきた活動以外にも、各校で特色ある取組が展開されています。

▶コミュニティ・スクール通信の発行



▶学校運営協議会委員による職場体験学習の受け入れ事業所を開拓



▶独自のコミュニティ・スクール研修



▶中学校区で合同研修を実施



その他 ▶小・中学校のグランドデザインにおける重点目標の項目を統一

- ▶公民館だよりで学校支援ボランティアやゲストティーチャーを募集
- ▶中学校区合同の「子どものめあて」「家庭学習の手引き」の作成
- ▶学校運営協議会委員による生活科「お店探検」の受け入れ店を開拓

教育委員会だより「Edu Navi」 でコミュニティ・スクールを特集

厚木市教育委員会だより「Edu Navi」令和元年
9月1日発行号に掲載された特集記事を紹介し
ます(一部写真の追加あり)。

依知南小学校

コーディネーター委員会を設置

依知南小は、平成29年6月にコミュニティ・スクール(CS)を導入しました。学校や子どもたちの課題を学校運営協議会で話し合い、保護者の皆さんが体力づくりに協力したり、家庭学習の定着に向けた取組をしたり、見守りを強化したりと、幅広く活動してきました。中川洋太校長は「CSの導入により、学校支援ボランティアは大幅に増え、今では教育活動に不可欠な存在になっている」と話します。

しかし、ボランティアの数が増えるほど、活動日時などの連絡調整に要する教職員の負担が増大します。そこで、学校運営協議会委員やPTA本部役員の経験者、地域連携担当の教員の6人で構成する「コーディネーター委員会」を発足。学校と地域のつなぎ役として今年度から活動を始めました。「大変なこともあるが、お世話になっている学校に恩返しができる」と話すのは、長年ボランティア



指導者が足りない中、保護者などが救急救命講習を受講したことで、子どもたちに教えることが可能に



校内のコミュニティルームで、コーディネーター委員会のメンバーが今後の活動を検討

として活動してきたコーディネーターの関谷美緒さん。「私たち保護者などが関わることで実現できた授業もあり、ボランティアの存在の大きさを感じている。コーディネーターとしては手探りの状態だが、無理せずに行えることから取り組んでいければ」と話します。7月には、同委員会が中心となりボランティア研修講座を開催。ボランティアの必要性や心構えを学び、保護者・住民と教職員がお互いに望むことについて、意見交換しました。

中川校長は「コーディネーター委員会は、今までなかった新しい取組。生みの苦しみはあると思うが、学校と地域が本音で語り合える場をつくりながら、両者を結び付けてもらいたい」と期待を寄せます。今後は、同委員会が中心となり、ボランティアのネットワークを拡大。子どもたちを地域の大人たちの「つながり」の中で育む体制を整えます。

教育委員会だより「Edu Navi」 でコミュニティ・スクールを特集

森の里小学校

森っ子学びねっとを立ち上げ

森の里小がCSを導入したのは平成30年6月。発足して間もないものの、森の里には学校と地域が協働して活動してきた歴史があります。代表的な取組は、平成17年から実施している「ふれあい喫茶の授業」です。

この取組は、授業後に講師や地域の高齢者と児童がお茶会で交流する、地域福祉推進委員会の活動の一環であることが大きな特徴です。授業では、地域住民が自分の経験や知識をいかして子どもたちにさまざまなことを教えます。住民のコーディネーターが森の里の歴史や昔遊びなど、各学年の授業内容に応じて地域で講師を探します。同校学校運営協議会会長でコーディネーターを務める青木信二さんは「学校と地域が一方的に支援する関係ではなく、Win-Winの関係になることが大切。ふれあい喫茶の授業では、学校は地域の力をいかした授業ができる一方、地域側は子どもたちと交流できる」と胸を張ります。

CSの導入で学校運営協議会の組織化は進



ふれあい喫茶の授業では青木さんも講師を担当

んだものの、活動を実践する仕組みづくりができていません。そこで、コーディネーターが中心となり、「森っ子学びねっと」を設立。森の里小の子どもたちの学びを支える、公民館を基地とした地域ぐるみの緩やかなネットワークをつくりました。コーディネーターの連絡調整により、ネットワークに加わっている住民・団体が活動を実践します。「活動を長く続ける秘訣は、地域の皆さんの主体性。子どもたちのため、学校のためだけでなく、自分自身の学びや成長という目的が活動に参加する大きな原動力になっている。子どもも大人も一緒に成長することで、地域も育っていく」と力を込める青木さん。学校と地域が協働した人づくりは、学校を核とした地域づくりにもつながっています。



児童は教わったことを壁新聞にまとめ、公民館で住民などを前に発表



教育委員会だより「Edu Navi」 でコミュニティ・スクールを特集



厚木市教育委員会だより「Edu Navi」令和元年9月1日発行号に掲載された特集記事を紹介します。



ここでは、NPO法人栃木かめま教育支援ネットワーク薬(ひこばえ)の代表理事・渡邊真知子さんのインタビュー記事を紹介します。

渡邊さんは、20年以上学校支援ボランティアに携わっている方で、令和元年7月に依知南小学校で開催された「ボランティア研修講座」の講師として招かれました。

ボランティアで自分も成長

約20年前に小学校での読み聞かせから学校ボランティアを始めました。現在は、NPO法人を立ち上げ、学校と地域の間に入るコーディネーターとして、住民の講師を探したり、先生の業務を補助したりする支援活動をしています。

今、先生はとても忙しい時代です。その忙しくさせている要因をボランティアの力で取り除ければ、先生はより子どもと向き合うことができ、感じ取れるものも増えると思います。一方、子どもたちは地域の力を借りてさまざまな力を培います。その力はいつしか地域に還元され、地域はさらに豊かになっていきます。

ボランティアをするときは、子どもたちや他のボランティアの皆さんと触れ合い、自分自身が楽しむことが大切です。そして、先生の考えに寄り添いながらも、地域の未来を担う子どもたちに何が必要か考え、学び続けていく。自分の子どもだけでなく地域の子育てに関わる活動は、きっと自身の大きな成長につながると思います。

始めよう！学校支援ボランティア ボランティアの心得

ボランティア活動を始める前に

神奈川県教育委員会
地域学校協働ハンドブック
「つなごう！つながろう！地域と学校」
より抜粋

◆自分にできることを考えよう

「子どものために何かしたい」「自分の経験や知識をいかしたい」と思ったことはありませんか。地域ボランティア活動とは、学校の教育活動や環境整備などを支援する活動で、ひいては元気な地域づくりにもつながっています。

誰でも気軽に参加できる活動から、専門的な知識や技能をいかした活動まで、さまざまな活動があります。「やってみたい」「役に立ちたい」という思いをいかせる活動です。



◆情報を集めよう

ボランティア活動を始めたいと思ったら、県や市町村の教育委員会などで情報を収集したり、学校の管理職や窓口となる担当者に相談したりしてみましょう。

また、コーディネーターがいる場合には、その方に相談してみましょう。

◆ボランティア活動について知ろう

ボランティア活動とは、自分の持つ知識・技術・経験・時間などを社会に役立てる活動です。強制や義務ではなく自分の意志によって行います。地域ボランティア活動は子どもや教職員、地域の仲間と一緒に活動することで、出会いや発見があり、元気をもらえる活動です。



始めよう！学校支援ボランティア ボランティアの心得

神奈川県教育委員会
地域学校協働ハンドブック
「つながろう！つながろう！地域と学校」より抜粋

ボランティア4つの原則

ボランティア活動の中で最も尊重されるのが自発性であり、自主的、主体的に取り組むことで、無理をせず、誰もが気持ちよく活動できることが大切です。

自発性

強制や義務で行うものではありません。自らの考えで自主的・主体的に行う活動です。

公共性

自分や特定の人たちのためものではありません。地域や社会全体のために行う活動です。

無償性

収入を目的とするものではありません。自ら時間や能力を無償で提供する活動です。

先駆性

考える力と行動力が求められ、社会をリードする活動です。

ボランティアの心得

学校には、それぞれの教育目標や年間の教育計画があります。また、学校によって学校生活のきまりに違いがあります。活動するときは、学校の実態に応じて柔軟に行動しましょう。



◆活動に入る前に確認や相談をしましょう

活動に必要な道具や材料は、基本的に学校で用意します。必要なものは打ち合わせで確認しましょう。

◆子どもの安全を心がけましょう

子どもの安全に配慮した活動を常に心がけます。子どもがけがや事故にあった場合は、速やかに近くの教職員を呼び、対応することが大切です。

◆子どもの人権や個人差に配慮しましょう

適切な言葉を使い、公平に接する必要があります。もちろん体罰は法律で禁止されています。

◆子どもや先生のプライバシーを守りましょう

ボランティアには「守秘義務」があります。活動の中で知れた秘密は口外してはいけません。

◆活動を振り返りましょう

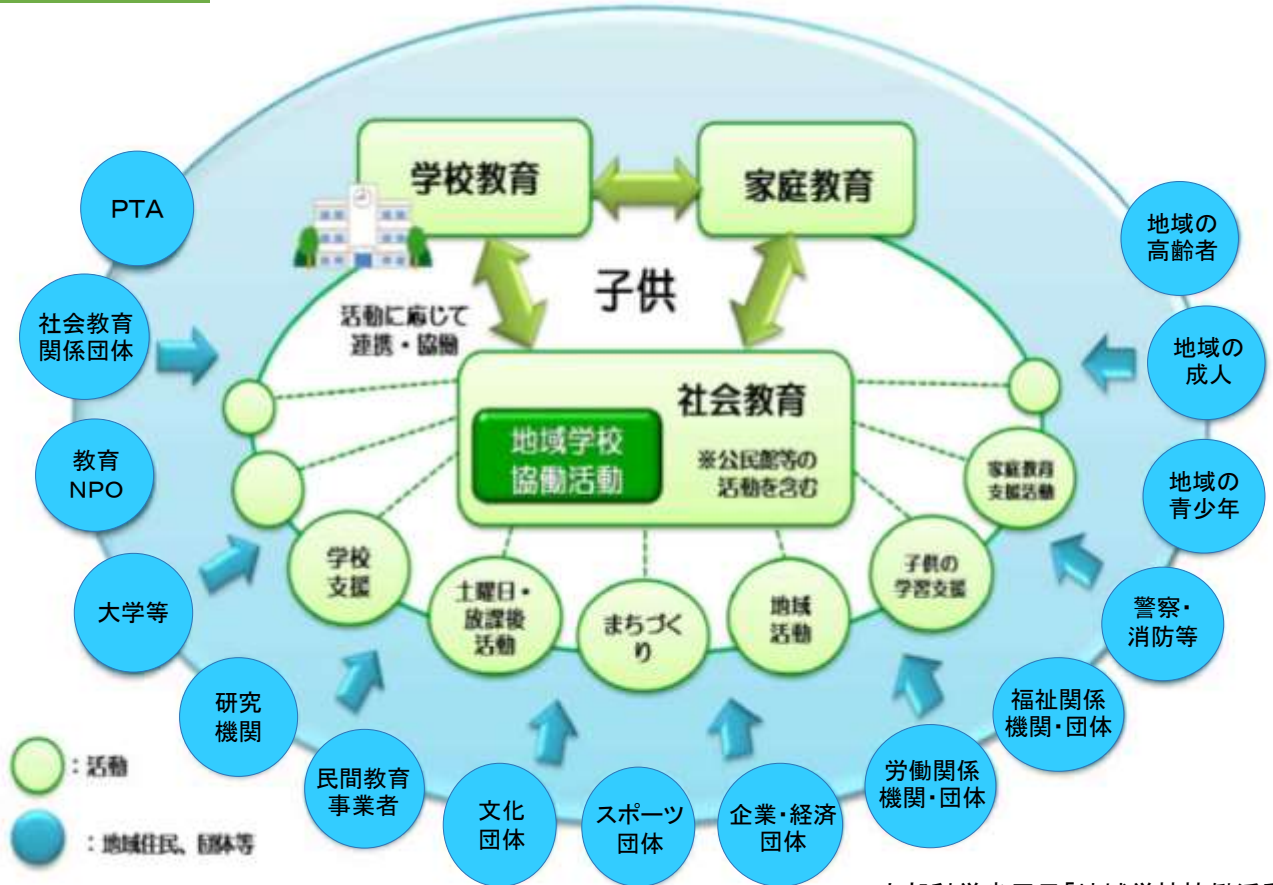
今後の活動をより充実させるために、活動内容や感想などを記録に残しておきましょう。

コミュニティ・スクールの一歩先へ 地域学校協働活動

地域学校協働活動とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行うさまざまな活動です。

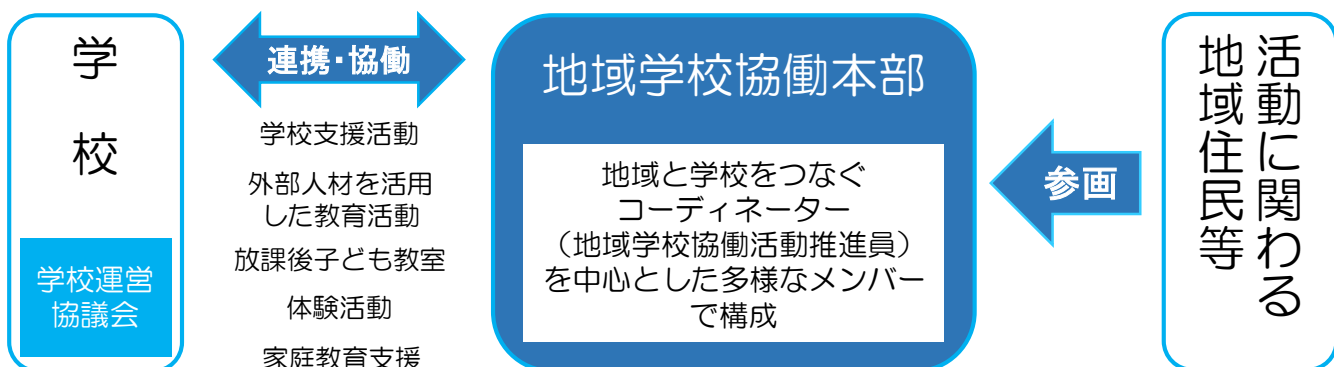
概念図

より多くの、幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成します。



文部科学省冊子「地域学校協働活動
地域と学校でつくる学びの未来」より抜粋

推進体制



未来を担う人づくり

令和2年3月

厚木市教育委員会